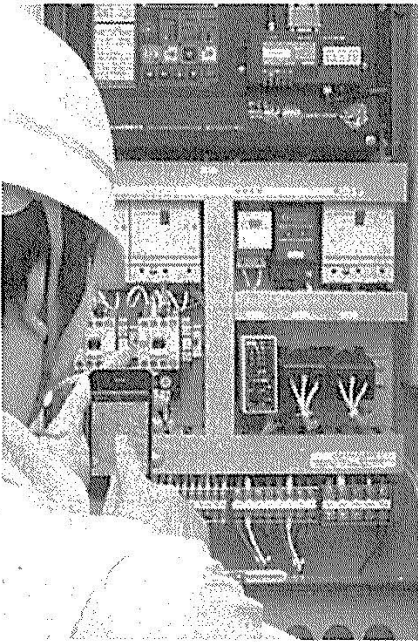


水神Gシリーズを発表

小松電機産業 スマートフォンを採用



iPad上での操作画面



iPhoneでの操作

小松電機産業（本社：松江市、小松昭夫社長）は6月29日、Googleマップをプラットフォームに採用した上下水道施設などの遠隔監視システム「やくも水神Gシリーズ」を新たに発表した。同システムでは、iPhone、Xperiaなどのスマートフォン端末での遠隔操作が可能。PCと同等の情報確認、操作を現場でも行えるのが特長になる。上下水道施設管理にGoogleマップ、スマートフォンを採用するのは国内初という。同社では、主に中小規模水道の上下水道施設を一元的に「エリア管理」するシステムとして展開していく考えで、すでに複数の自治体での採用が内定している。

同社はこれまで、NTTドコモのFOMA網を用いた上下水道施設などの24時間遠隔監視システム「やくも水神」を手掛けてきた。

システムでは、東京代々木と松江市内の二つのデータセンターで全てのデータを管理。iモード携帯電話での管理制御が可能で、異常発生、機器故障などには警告メールが届く。自治体ごとにサーバーを設ける必要が無く、中央監視制御システムに比べ、インシヤルランニングコストを大幅に抑えることができる。

同社によれば、上下水道

常発生、機器故障などには警告メールが届く。自治体ごとにサーバーを設ける必要が無く、中央監視制御システムに比べ、インシヤルランニングコストを大幅に抑えることができる。

遠隔監視部門で38都府県、190自治体、4600カ所の納入実績があり、「業界最多」だという。

Gシリーズでは、画面上で管理操作を行うプラットフォームにGoogleマップを新たに採用。広域から詳細までの情報（3D含む）をweb上で閲覧、操作が可能となり、地域に点在する上下水道施設などを一元的に管理

することでもできる。管理台帳などの新機能も追加した。既存システムのGシリーズへの更新費用は無料。また、PCでの操作のほか、ソフトバンクのiPhone、iPad、ドコモのXperiaなどの本格的なインターネット機能を備えたいわゆるスマートフォン端末を利用。現場などでもPCと同等の高度な操作管理が可能となる。通信は各社端末契約の回線を使用するため、実質無料化できる。

小松社長は「スマートフォン採用により、施設の維持管理手法がガラッと変わる。上下水道などの遠隔監視分野において、3年後に現在の3倍となるシェア30%を目指す」としている。